

## 2016年度 同志社大学大学院 司法研究科

### 前期日程入学試験問題 法律科目試験

#### (民法)

##### 第1問

次の(設例)を読んで、問(1)から(4)に答えなさい。

##### (設例)

1. Aは、総戸数40戸の甲マンション一棟の所有者である。
2. Aは、甲マンション内の一戸・402号室をBに賃貸し、Bは402号室に家族とともに居住している。
3. ある日、Bの同居家族である妻Cは、Bの留守中に夕食の準備のために買い物に出かけた。Cの外出中に、B宅の洗濯機(Bが所有しているが、これを用いての日常の洗濯はCに任されている)と水道管の接続用ホースがはずれ、水道栓が閉じられていなかったため、402号室の居住スペース内に水があふれ出た。Cが帰ってきたときには部屋中が水浸しになっていた。
4. 事実3の402号室内の溢水により、402号室の床下に浸水し、402号室の壁も損傷し、真下の住戸である302号室(DがAから賃借している)にも浸水して302号室の天井及び壁が損傷し、302号室の壁に掛けられていたD所有の絵画乙にも染みが生じた。

##### 問(1)(配点:10点)

AはCに対していかなる請求をすることができるか。法律上の根拠を示して簡潔に論じなさい。

##### 問(2)(配点:5点)

AとBの間の契約に関して、Cはいかなる法的地位にあるかを簡潔に説明しなさい。

##### 問(3)(配点:15点)

AはBに対していかなる請求をすることができるか。法律上の根拠を示して論じなさい。

##### 問(4)(配点:20点)

DはAに対していかなる請求をすることができるかを、次いで、DはBに対していかなる請求をすることができるかを、それぞれ、法律上の根拠を示して論じなさい。

第2問

次の(設例)を読んで、問(1)から(3)に答えなさい。なお、解答にあたっては、判例の立場にしたがって解答する必要はないが、判例と異なる立場をとる時は、判例の立場を示したうえで、自己のとり立場について示し、かつ、それぞれについて理由をあげて答えなさい。

(設例)

1. 1994年5月20日、Aは、B会社よりB所有の甲土地建物を無償で譲り受け、その直後に引渡しを受け、現在も甲での平穩公然な居住を継続している。
2. AがBより甲を贈与されたのは、次の事情による。すなわち、1993年頃、Aは居住用住宅を探しており、当時、Bの従業員であったAは、Bより甲への居住を承諾された。甲は、荒廃甚だしく物置同然の仮小屋であったのであるが、Aは、1993年10月1日以降甲に大修繕大改築をして入居した。そこで、Bは、Aの会社への功勞と多額の費用を出費して甲を改築したことから、甲をAに贈与することにしたものである。
3. AもBも甲土地建物についてのAへの移転登記をするつもりであったが、登記はB名義のままになっていた。
4. Bは、Cより融資を受けたが、その返済に窮し、やむなく、自己名義のままになっていた甲土地建物を、Cに代物弁済することにし、2001年8月1日、BはCとの間で甲土地建物の代物弁済契約を締結し、同日Cへの移転登記を経由した。

問(1) (配点：10点)

2001年9月1日、CがAに対して、所有権に基づいて、甲土地建物の明渡しを請求してきたとする。Aは、Cの請求に応じなければならないか。根拠となる条文と理由をあげて簡潔に答えなさい。

問(2) (配点：15点)

2004年9月1日、CがAに対して、所有権に基づいて、甲土地建物の明渡しを請求してきたとする。Aは、Cの請求に応じなければならないか。根拠条文をあげ、かつ、事実を摘示して要件の充足性を検討しなさい。

2016年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(民法)

---

問(3) (配点: 25点)

(設例)の事実4とは異なり、次の事実5があったとして、次の問題(ア)、(イ)に答えなさい。

5. 2005年6月1日、CはBより甲土地建物を譲り受け、同日その旨の移転登記を経由した。その後、Cが、Aに対して、所有権に基づいて甲土地建物の明渡しを請求してきたとする。

(ア) Aは、Cの請求に応じなければならないか。

(イ) 時効制度の趣旨が、長期間の占有を法的状態に高めることにあると解するとする。この時効制度の趣旨の理解を前提とすると、本問の(ア)における結果は、この趣旨と合致するかについて検討しなさい。その際、問(2)の結果とも比較して答えなさい。